NPO 法人アルペなんみんセンター

2021 年度 事業報告書

（2021 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日）

2022 年 6 月 25 日第 3 回通常総会承認

はじめに

難民のための地域での居場所づくりや回復を目指し様々な計画と希望を持って、2021 年度の活動を行いました。令和３年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成金を得て「難民のエンパワメントと社会参画を通した回復から自立までの支援事業（以下、WAM 助成）」を併せて行いました。

しかし、実際に活動を行ってみて、計画通りに進まないことを痛感しました。入居者はそれぞれ、母国で大変な経験をし、日本に来た後も孤立や経済的困窮、入管施設での収容などを経て当シェルターに来ています。これまで受けた傷は、わたしたちが想像していたよりはるかに深く複雑なもので、簡単には「回復」できないことに気づかされました。

また、活動に参加することが入居者にとっては簡単ではないこともわかりました。仮放免中の入居者にとっては、ほんの数ヶ月先のことをイメージすることさえ苦しく困難なことでした。そのためコミュニティとして計画を立ててイベントを実行したり、在留資格取得後の生活を想像して将来に向けて準備をしたりすることは大変なことでした。

このように、計画が思うように実行できない日々の中で、「回復」とは何を指すのか、「自立」とはどのような状態なのかなど、当初目標として掲げていたものを再考せざるを得なくなりました。

一方で、入居者同士が「アルペのみんなは家族」と言って笑い合う姿を見たり、地域の人たちとの関わりを通して「人に会うことが楽しみだ」「自分も何か人の役に立てることがあって嬉しい」といった感想を聞いたりすることもありました。少しずつ心を開く入居者と過ごす中で、人との関わりや地域での居場所が大切だということに改めて気づきました。

これらのことは、従来の通い型の支援や住居の提供のみの支援では見えなかったもので、共同生活という形をとったからこそ見えた成果だと考えています。

また、地域と積極的に関わりを持ったことで、地域住民の変化にも気づきました。最初は難民に対し「怖い」イメージを持っていたり、自分とは関係ない遠い世界の人だと思っていた人たちも、入居者と出会うことで、難民をとりまく現状に関心を持つようになってきました。「友達になりたい」、「なんとかしたい」と言った声も多く聞かれるようになりました。これらの変化は、鎌倉市議会を動かし、国への難民政策の見直しを求める意見書提出や「鎌倉なんみん共生フォーラム」創設につながりました。

わたしたちは、この一年間を通して「人との関わり」「居場所」が難民の「回復」につながることを学びました。同時に、地域において難民を迎え入れるきざしを感じることができました。難民を受け入れることができる社会を目指し、これからも活動を継続していきます。

1　難民への定住支援事業

（1）緊急シェルターの提供

緊急シェルターの提供　2021 年度実績　実人数 20 人　滞在日数　3,519 泊
2020 年度実績　実人数 15 人　滞在日数　1,857 泊

＊ 2021 年度　新規入所　15 人（2020 年から継続入所 5 人）
＊ 平均滞在日数　236 日間（2020 年からの継続含む）
＊ 最長滞在日数　603 日間（2020 年からの継続含む）
＊ 最短滞在日数　34 日間
＊ 2022 年 3 月 31 日現在入所者　9 カ国　12 名

緊急支援金の支給　2021 年度実績　延べ 342 件（計画　延べ 300 件）
2020 年度実績　延べ 152 件

難民の安心できる場所の提供

施設内には 30 部屋の個室があり、各部屋にはベッド、机、椅子、照明、洗面台、冷暖房器具、戸棚などの設備が完備されています。共同トイレ、シャワー、洗濯機、談話室も 1 階女性棟、2 階男性棟にそれぞれ設置しました。通信手段を確保するため、入居者スマートフォンを提供し、施設内で常時 Wi-Fi が接続できるようにしました。

食事　1 日 3 食の温かい食事を提供しました。調理担当スタッフとボランティア、入居者が調理を担当しました。WAM 助成に加え、近隣の農家や青果店、フードバンク、社会福祉協議会などからも食材の支援を得ました。

衣料・日用品　地域の市民グループや個人から中古・新品の衣料や日用品の寄贈を受けました。入居者は、毎月開かれるショップ（配布会）で必要な衣料や日用品を入手しました。寄贈品の整理や配布は地域のボランティアグループの協力で行われました。

医療　週 1 回、地元の医師による往診、月 1 回、2 名の医師と 1 名の鍼灸師による医療相談を実施しました。必要に応じて地域の医療機関での診療にスタッフが同行するなどのサポートも行いました。

（2）日本語学習支援

日本における将来的な自立のため、日本語の個人レッスンを実施しました。また、入居者同士のコミュニケーションのために、ボランティアによる英語のグループレッスンを週 1 回実施しました。

（3）音楽セラピー

入居者の回復と癒しを促すことを目的に、プロの歌手の指導による週 1 回の音楽セラピーを実施しました。ストレッチや歌を通して入居者同士が交流し、励ましあう場ともなりました。6 月 20 日の「世界難民の日」にはオリジナル楽曲を入居者全員で歌い、オンラインイベントで配信しました。また、打楽器ワークショップを開催し、12 月 18 日の「国際移住者デー」のオンラインイベントで動画を配信しました。

（4）アルペファーム（農作業）

敷地内の畑で、毎週土曜日に農作業を行いました。近隣住民が中心となり、入居者と交流しながら野菜を育てました。作業には子どもたちも参加し、ふれあいの場ともなりました。春と秋にはみんなで収穫の喜びを分かち合いました。

（5）日本文化、日本の歴史を学ぶ

日本の文化を学び、入居者同士の交流、地域の人びととつながるため、近隣の寺院、文化施設、歴史的な施設等を訪問しました。

また､地域の方々と｢お茶会｣を実施しました。

（6）近隣の居場所プログラム

月一回開催される近隣の地域食堂「ふらっとカフェ in 二階堂」に毎回参加しました。

また、鎌倉市社会福祉協議会、社会福祉法人きしろ社会事業会の協力で、近隣のデイケアサービスにボランティアとして参加させていただきました。

2　情報発信事業

（1）国際理解教育事業（なんみんセミナー、オープンデー）

なんみんセミナー（オンラインを含む）を全国の小中高、大学、近隣施設で実施しました。また施設見学、難民との交流を目的にオープンデーを開催しました。

日程	主催 / 実施団体 / 協働団体	参加人数
4 月 11 日	SDGs 活動支援センター、鎌倉ユネスコ協会、アルペなんみんセンター	120 人
5 月　6 日	新潟県立看護大学	12 人
5 月 22 日	カトリック雪ノ下教会	100 人
6 月 17 日	上智福岡中学高等学校	160 人
6 月 23 日	東京外国語大学	85 人
9 月　4 日	鎌倉市 SDGs 推進隊学習会	23 人
9 月 11 日	船橋学習センター ガリラヤ	95 人
9 月 28 日	プラチナ・ギルドの会	50 人
10 月 19 日	イエズス会社会司牧センター	120 人
10 月 30 日	アースデイ鎌倉	50 人
11 月　4 日	県立大船高校訪問	4 人
11 月 16 日	新座市第 4 中学校	160 人
12 月　1 日	プラチナ・ギルドの会	14 人
12 月　2 日	広島学院中学校・高等学校	1,100 人
12 月 16 日	アルペなんみんセンター（オープンデー）	8 人
12 月 18 日	移住者と連帯する全国ネットワーク	120 人
1 月 12 日	清泉女子大学	70 人
1 月 13 日	アルペなんみんセンター（オープンデー）	12 人
1 月 25 日	湘南白百合学園同窓会	20 人
1 月 26 日	自由学園中等科	13 人
1 月 29 日	神奈川ネットワーク運動	40 人
2 月 28 日	グローバル時代の日本と人権保障研究会	7 人
3 月 10 日	(公財)かながわ国際交流財団・明治学院大学「内なる国際化プロジェクト」	16 人
3 月 17 日	アルペなんみんセンター（オープンデー）	5 人
3 月 20 日	多文化共生教育ネットワークかながわ ME-net	78 人
3 月 29 日	地域の居場所「さっちゃんち」	15 人
参加者合計		2,497 人

2021/4/11　鎌倉芸術館

2021/5/22　カトリック雪ノ下教会

2021/6/23　東京外国語大学

2021/9/4　鎌倉市 SDGs 推進隊学習会

（2）ニュースレター、ホームページ、SNS 等での情報発信

1）ニュースレター「アルペ通信」

本事業での取り組みをはじめとした当団体の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペ通信」第２号と第３号を各 8,000 部発行、配布しました。

2）ホームページ

当団体のホームページ にて活動について紹介しました。またイベントの募集と報告を行いました。https://arrupe-refugee.jp

3）SNS 配信、YouTube チャンネル

Facebook ページにて当団体の活動の最新情報を発信しました。https://www.facebook.com/arrupe.refugee また、YouTube でも動画を配信しました。

4）パンフレット

団体の活動紹介パンフレットを５万部制作発行し、公共・民間の施設、店舗などで配布しました。

5）難民啓発ポスター

「わたしは なんみんです。かまくらでくらしています。」
というメッセージを掲げた啓発ポスターを 200 部作製しました。
鎌倉市内の公立の全小中学校に配布し、校内掲示いただきました。

（3）イベントによる情報発信

1）「世界難民の日」イベント

6 月 20 日の「世界難民の日」にオンラインイベントを主催し、施設の活動紹介やインタビューなどのプログラムを配信しました。その様子は NHK や民放のテレビ、新聞各社で報道されました。Facebook ライブ等で配信され約 1,500 回視聴されました。

（2022 年 3 月現在）

2）「国際移住者デー」イベント参加

打楽器ワークショップを開催し、録画編集した動画を 12 月 18 日「移住者と連帯する全国ネットワーク」主催のオンラインイベント「国際移住者デー 2021 私たちの社会は、私たちがつくる！」の一部として配信しました。

3）チャリティコンサート

- bit 主催チャリティコンサート（10/16）
- 鎌倉市民合唱祭（10/30）
- 鎌倉ユネスコ協会「料理を通して国際理解」（12/6）

4）市民活動への参画・共同企画

アースデイ鎌倉　10 月 30 日

地域の市民活動グループによる「アースデイ鎌倉」や「SDGs セミナー」などの市民イベントにおいて難民に関する講義やアピールを行うことで、地域の人々に難民について知っていただく機会となりました。

5）「なんみんカフェ」の実施

地域の人々が難民と出会い、難民に関心を持つきっかけとなるよう「なんみんカフェ」を地元の企業、飲食店と協働で開催しました。「食」を紹介することで、難民の母国や難民問題についてより身近に感じてもらいました。

4月27日　ゲストハウス「亀時間」 ミャンマーのＭさんが作るまぜうどん「ナンジートゥ」

10 月 31 日　まちの社員食堂
スリランカのＲさんが作るミルクティー

12 月 12 日　まちの社員食堂　スリランカのＲさんが作るスリランカカレー

（4）メディア掲載

多くのメディアを取材をうけ、取り上げていただきました。

新聞 19、雑誌 5、ネットニュース 4、インターネットテレビ 1 、テレビ 3 、ラジオ 1

【新聞】

コロナ禍で増える入管の仮放免　就労不可で困窮も	2021/04/19	日本経済新聞
鎌倉にたたずむ難民シェルター　閉じた心、取り戻すため	2021/07/28	朝日新聞
難民申請者と交流の輪　鎌倉の NPO、日本の難民政策に一石	2021/09/18	東京新聞
代理人弁護士「歴史的」＝難民支援団体も歓迎ー強制送還「違憲」判決	2021/09/22	時事通信
母国逃れてきた人、日本にも	2021/10/21	朝日小学生新聞
「カレー屋さん始めるのが夢」難民申請中のリヴィさん	2021/11/27	朝日新聞
生きていてよかったと思える家を	2021/12/01	こころの友
農作業や “ まちのコイン ” で市民交流	2021/12/01	鎌倉朝日新聞
「中学生」と「難民」（全国中学生人権作文コンテスト神奈川大会最優秀賞）	2021/12/04	神奈川新聞
「中学生」と「難民」	2021/12/16	タウンニュース
難民申請者に居場所を（共同通信配信）	2021/12/28	西日本新聞、中部経済新聞他 5 紙
難民シェルター　ひとときでも安息を	2022/01/08	毎日新聞
Shelter in east Japan provides temporary comfort to refugee applicants	2022/01/17	毎日新聞
クルッポアワード　なんみんセンターなど受賞	2022/01/28	タウンニュース
施設見学で難民のことを知って	2022/03/27	東京新聞

【雑誌】

難民問題も「まちのコイン」でジブンゴト化	2021/07/28	SHONAN TIME
難民の人々を歓迎できる社会に！	2021/12/01	福音宣教
鎌倉市議会の総意として難民政策の見直しを求める意見書を国に提出	2021/12/01	M ネット
難民の人々を歓迎できる社会に！	2022/02/01	ハリーナ
食から始まる地方再生　アルペなんみんセンター	2022/02/10	地域人

【ネットニュース】

まちのコインで難民さんが笑顔に！	2021/06/18	カヤックニュース
New refugee shelter provides safety, stability and hope for the future	2021/06/20	NHK World
まちのコインがくれた「つながりと存在意義」	2021/06/21	note まちのコイン交換日記
難民認定を待つ外国人がつくる、母国の料理を食べて応援！	2021/11/24	PRTIMES

【インターネットテレビ】

難民問題を考える	2022/03/31	デモクラ TV

【テレビ】

難民過去最多「コロナでさらに困窮」	2021/06/20	TBS ニュース
「世界難民の日」オンラインで交流	2021/06/21	NHK ニュース
地域交流で “ 社会とのつながりを ”	2021/10/20	NHK ニュース

【ラジオ】

アルペなんみんセンター活動紹介	2021/06/21	鎌倉 FM

入管仮放免コロナで増加

収容施設の3密防止

就労禁止 生活は困窮

2021/04/19　日本経済新聞

難民支援 地域とのつながり模索

鎌倉のシェルターに8人

紅茶の淹れ方伝授・海岸清掃…地域通貨を介し

2021/07/28　朝日新聞

東京新聞 夕刊

難民申請者と交流の輪

「名前で呼び合える関係を」

鎌倉のNPO、日本の政策に一石

2021/09/18　東京新聞

西日本新聞 夕刊

難民申請者に居場所を

就労禁止、行動に制限多く

金銭介さぬ料理や触れ合いの場

「必要とされる喜び」提供

2021/12/28　西日本新聞

母国逃れてきた人、日本にも

2021/10/21　朝日小学生新聞

こころの友

2021 12

生きていてよかったと思える家を

NPO法人アルペなんみんセンター 事務局長

有川憲治さん

2021/12/01　こころの友

ひとときでも安息を

2022/01/08　毎日新聞

3　調査・研究事業

（1）「鎌倉なんみん共生フォーラム」設立に向けた取り組み

地域における難民の受け入れと支援に関する連携をはかるため、市民グループ、社会福祉協議会、社会福祉施設、市議会議員、メディア関係者などが集い、学習会を行いました。

カナダの自治体や市民グループによる難民受け入れの事例について学び、地域での難民受け入れのための意見交換をしました。最後に、鎌倉なんみん共生フォーラムの設立にむけて参加者一同で合意しました。

カナダに学ぶ難民の受け入れ　－ プライベートスポンサーシップを通して

日時　2021 年 11 月 11 日（木）14：00 ～ 16：00
場所　カトリック雪ノ下教会レベックホール
講師　新島彩子（認定 NPO 法人難民支援協会 理事）
参加人数　36 名
参加団体・参加者所属団体
鎌倉市議会、鎌倉市社会福祉協議会、鎌倉警察署、神奈川ネットワーク運動
鎌倉市浄明寺町内会、特定非営利活動法人 鎌倉ユネスコ協会、社会福祉法人きしろ社会事業会
ふらっとカフェ鎌倉、ぐるぅぷ未来、アムネスティ・インターナショナル鎌倉グループ
NHK、面白法人カヤック、カトリック雪ノ下教会

（2）地域通貨「クルッポ」を活用した地域とのつながり

■ 鎌倉市の地域通貨「クルッポ」

鎌倉市の「クルッポ」とは、2021 年1月からスタートした「人と人のつながり」を増やす地域通貨です。鎌倉市の企業「面白法人カヤック」によって運営されており、神奈川県の SDGs（持続可能な開発目標）推進事業の一環でもあります。

クルッポはスマートフォンアプリ「まちのコイン」を利用し、コインを提供する場所「スポット」で獲得することができます。例えばテイクアウトの容器を持参すると 200 クルッポ、窓拭きをすると 1,000 クルッポなどの体験を通して貯め、集めたクルッポは 500 クルッポで「鎌倉の歴史を知る」などの体験に利用できます。まちと人とつながることで毎日の楽しみが増えたり、SDGs に貢献できる地域通貨です。

■ 地元企業とクルッポを活用し、「なんみんカフェ」を開催

2021 年 4 月に鎌倉のゲストハウス「亀時間」、12 月にカヤックが運営する「まちの社員食堂」でクルッポを活用した「なんみんカフェ」を開催しました。

「亀時間」ではミャンマー出身の M さんが母国で人気の「ナンジートゥ」という麺料理を振る舞いました。13 名のお客様で満席となり、日本では

なかなか食べることができないミャンマーの家庭料理は大好評でした。

食を通してミャンマーの文化に触れ、M さんとの出会いを通して日本に暮らす難民の状況について知る機会となりました。今まで難民について知らなかった地域の方々も、M さんやアルペを応援してくだっている方々とつながり、地域の交流が広がりました。

M さんは「知らないお客様に自分の作る料理をお出しするのは初めて」と、当日まで何度も試作を繰り返しました。当日はお客様の笑顔に触れ、それが M さん自身の喜びと自信になりました。

アルペでは今後も地域の方々と難民の出会いと交流の場をつくり、「難民を友人として迎え入れる地域づくり」を進めていきます。

■ 地元企業とコラボした消臭袋を開発

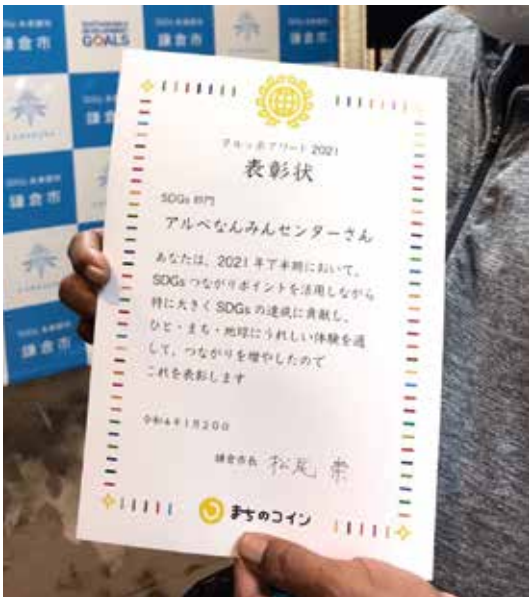
2022 年2月、「カドルコーヒー」、「メーカーズシャツ鎌倉」、「アルペなんみんセンター」による共同のクルッポ企画がはじまりました。

メーカーズシャツ鎌倉さんの端切れ布を、アルペなんみんセンターの難民が巾着に縫製し、カドルコーヒーさんのコーヒーの出涸らしを詰めた「人と地球にやさしいコーヒー消臭袋」を開発しました。鎌倉でアップサイクル（捨てられるはずだった廃棄物や不用品を、新しい製品にアップグレードすること）、難民支援、SDGs に貢献する嬉しいつながりの企画がクルッポという地域通貨を通して実現できました。

■ 鎌倉市 クルッポアワード 2021（SDGs 部門）を受賞

2022 年 1 月 20 日「SDGs 未来都市」を掲げる鎌倉市とクルッポを運営するカヤックが企画した「クルッポアワード 2021」で「SDGs 部門賞」をいただきました。「特に大きく SDGs の達成に貢献し、ひと・まち・地球に嬉しい体験を通して、つながりを増やしたスポット」とし

写真中央、松尾 崇 鎌倉市長（2022 年 1 月 20 日、鎌倉市役所）



（3）国内外の難民支援団体とのネットワーク

■ NPO 法人なんみんフォーラム、NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワークへの参加・連携

国内の難民支援ネットワーク団体への参加、連携を通して諸課題への解決を目指します。

■ 国際的な難民支援団体ネットワークへの参加、連携